

Catalog Pocket掲載コンテンツ「厚生会だより ふれあい」



※限定公開機能にて会員向けに配信中



兵庫県学校厚生会・関係法人公式サイト「スマイルポート」



一般財団法人 兵庫県学校厚生会

会員とのつながりを紡いできた広報誌  
デジタル化によってその利便性をさらに高める

1968年に発足した兵庫県学校厚生会は、公立学校の教職員と、教育関係者を会員としています。会員の暮らしが豊かで安定するよう、資産・健康・住まい・旅行など、さまざまな福利厚生を提供しています。的確でタイムリーな情報提供がカギとなるなか、兵庫県学校厚生会では広報誌を発行してきました。そして最近「MCCatalog+(エムシーカタログプラス)」と、その専用ビューアアプリ「Catalog Pocket (カタログポケット)」によって、広報誌のデジタル化を推進しています。どのような課題解決につながっているのか、高橋専務理事にお話を伺いました。

本製品に関する情報は [www.mccatalog.jp](http://www.mccatalog.jp)

- 本カタログに記載されている会社名および商品名・ロゴは、各社の登録商標または商標です。
- 本仕様は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



一般財団法人コンピュータソフトウェア著作権協会  
モリサワ製品の不正コピーなど、違法行為にお気づきの方は  
(一社)コンピュータソフトウェア著作権協会 (Tel:03-5976-5178)までご連絡ください。



株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel:06-6649-2151  
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel:03-3267-1231  
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel:022-296-0421  
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel:052-201-2341

札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112  
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel:092-411-5875  
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田平ビル2F Tel:099-252-2255  
浜松開発室 〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢34-2 遠鉄浜北ビル2F Tel:053-424-7707





兵庫県学校厚生会  
高橋専務理事

## 配付コストなど紙媒体に感じていた限界

兵庫県学校厚生会さんでは普段、どのようなことを意識しながら運営されていますか？

現職会員約37,000人、退職会員約33,000人の会員組織として、私たちがとても大切にしているのが「つながり」です。当会と会員との「つながり」はもちろんのこと、会員同士の「つながり」も育みたいと考えています。

会員と当会をつなぐ効果的なツールが、広報誌やホームページ、メールマガジンといった媒体です。なかでも設立当初から発行している広報誌「ふれあい」は50年以上の歴史があり、私たちと会員のつながりを太く強固なものにしてきました。たとえば、仲間の頑張っている姿を見て勇気づけられたり、退職会員と現職会員が連絡を取り合うようになったりなど、広報誌をきっかけにさまざまな交流が生まれています。

現在は年10回お届けしており、福利厚生事業の最新情報はもちろん、教育に役立つ内容や、会員同士が交流する場の提供など、常に会員目線での情報発信を心掛けています。

広報誌による情報発信で、課題に感じていたことをお聞かせください。

刷り上がった広報誌のお届けについて、現職会員には県内約1,600校の学校園を担当者が訪問し、各種手続きや相談ごとに対応しながら配付しています。また、退職会員には地域にお住い

の退職教職員が、世帯係として近隣の退職会員宅へ近況をお尋ねしながら配付しています。それにかかる労力や時間が、1つの課題となっていました。

また現職会員の皆さんは、コロナ禍も相まって多忙を極めています。ゆっくり広報誌を読んでもらう時間が少なくなっている点にも、懸念を感じていました。家に持ち帰って読んでもらえたらと思うのですが、なかなかそういう会員は少ない状況です。

さらに、現職会員の若年化によってデジタル化が一般的になるなか、紙の媒体に否定的な意見を持つ会員も増えてきました。利便性や環境保護という観点からも、紙媒体のあり方を見直さなければならないと感じていたのです。そのようななか、出会ったのが「MCCatalog+」です。

## プッシュ通知機能で閲読率を高めたい

「MCCatalog+およびCatalog Pocket」のどのような点に魅力を感じられたのでしょうか？

リンクを貼れば、そこからより詳細なページへ移動することが可能なので、情報の厚みが増すだけでなく、多角的な情報発信が可能になると考えました。

そして一番惹かれたのは、「プッシュ通知機能」です。誌面はホームページにもアップしているのですが、ほとんどの会員はそのことを知りません。ビューアアプリの「Catalog Pocket」によってプッシュ通知が届くようになれば、最新号の発行に気づくことが

でき、もっと多くの会員に読んでもらえるはずだと感じました。そこで当会の広報について検討協議する「広報委員会」で課題を共有し、合意を得るべく動いていきました。

広報委員会へどのように説明をされたのか、お聞かせいただけますか？

「Catalog Pocket」の導入によって広報にかかる費用が上乗せにならないことを、具体的に提示しました。たとえば現在の広報誌の紙質や色数を抑えること、あるいは保存用のパンチ穴をなくすことで作成費用を削減し、その削減分でアプリを採用したいと提案しました。

当会の基幹システムは2024年度に大幅な刷新を予定していますので、「それを見てからでもいいのでは?」「ほかにもアプリがあるのでは?」といった意見もありましたが、早めにデジタル化に踏み切れば、そのぶん必ず紙の削減につながることや、私たちが見てきたなかで「Catalog Pocket」は非常に機能が高いと感じたことなどを、丁寧に伝えていきました。

モリサワからは、どのようなサポートがあったのでしょうか。

広報委員会での提案にあわせて、実際の運用画面がイメージできるサンプルを作成してもらったり、機能面の特徴などについて細かく説明してもらったりするなどのサポートを受けました。

広報委員会では、実際の画面を見たことで、各委員はイメージがしやすかったと思います。その甲斐もあって合意が得られ、2022年4月から導入を開始しました。

導入が決まる前から丁寧に対応いただいただけでなく、運用開始後も、不明な点などに対しては親切に対応いただいています。

## 続々と届くうれしい声に手応えを感じた

実際に運用してみたの感想をお聞かせください。

現場の編集スタッフの作業は、専用ソフトにPDFを取り込むだけで、ほとんどの機能は自動作成されますが、それだけでは終わりません。「文字と文字の間に意図しないスペースが入っていないか」「文字の折り返しは適切か」などをしっかり確認しなければならず、いまはまだ予想以上に時間がかかっています。しかし、慣れの要素も大きいと感じているため、スタッフのスキルが上達すれば、負担はかなり軽減されると思います。

また、「Catalog Pocket」の優れた機能の一つに「音声読み上げ機能」があり、音声の校正には時間を割いています。当会には盲学校に勤務する会員もおられるので、このシステムは非常に有効だと考えていますが、せっかくの機能を活かすきるためにも、正しく適切な情報を提供しなければと考えています。

利用者である、会員の方々の反応はいかがですか？

運用をはじめてから期間が浅く、ダウンロード数は約700人と、まだそれほど多くはありませんが、  
■ 早速ダウンロードした  
■ アプリから直接ホームページに移動できて便利  
■ 記事が拡大表示できるので読みやすい  
■ 育児休業中でも、最新情報が手軽に入手できる  
といった、うれしい声が届いています。手応えは十分に感じていいますので、あとはいかに利用者を増やすかですね。

## 紙とホームページをつなぐ強力なツールとして

利用者を増やすために、どのような工夫をしておられますか？

導入前には広報誌で先行告知をし、アプリのダウンロード方法やログイン方法について、画像を使ってわかりやすく解説しました。また、ダウンロードした会員にプレゼントが当たるキャンペーンも実施しており、広報誌やメールマガジンで伝えています。

2022年度は利用者拡大の重点期間と位置づけていますので、今後も「Catalog Pocket」の便利な機能について紹介していきます。

MCCatalog+に期待することをお聞かせください。

ペーパーレス化促進の牽引役になってもらいたいですね。ペーパーレス化は経費削減だけでなく、環境保護の観点からも非常に重要となります。当面は、広報誌を中心とした運用を継続しますが、将来的にはチラシやカタログ等の媒体にも拡大していく予定です。

今後、「Catalog Pocket」利用者の更なる拡大を図り、情報発信の迅速化とデジタル化を進めていくうえで、広報誌等の紙媒体とホームページをシームレスにつなぐ強力な橋渡し役になってもらいたいですね。